

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 53

学校名・団体名	静岡市立伝馬町小学校
HPアドレス	http://www.tenma-e.shizuoka.ednet.jp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	縦の連携・よこのつながりの強化で子どもを育てる
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>自己及び他者への積極的関心の形成・身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上・夢や希望、あこがれる自己イメージの獲得・勤労を重んじ、目標に向かって努力する態度の育成・「基礎的・汎用的能力」の育成を通してキャリア発達を促す。この目標の実現化に向けて、社会に開かれた教育課程が必要で、学校が社会と接点をもちつつ、多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことができる環境を整えていく必要がある。この育成のためには、学年ごと縦のつながりと横の連携を意識した取り組みをめざす。</p>	

1 書家 岩科蓮花さんを招いての授業

(1) 3年生 「木」

3年生に対して、左はらいの学習である「木」の書き方指導を3年前から本校の習字指導にお呼びしている岩科さんをお招きして行った。

書家の息づかいや筆運びなどは、大変参考になった。特に、直接手を添えての指導は、子どもにとって深く理解できものとなった。



3年生にとって、初めての習字。始筆、終筆、縦画、横画の基本を学んだばかりの子供たちにとって、「左はらい」や「右はらい」は、高度な技術となる、特に、右はらいの書き方を会得するには時間がかかる。今回、書家の先生の筆運びを直接見たことや、手を添えて指導していただいたことで、その技術の獲得が容易になったと感じられた。また、見ていた子供たちは、書家の先生の一画一画の動きすべてが匠の技として感じられた。

(2) 4年生 「左右」

筆を立てて書くのはなぜか。弾力を使って、その勢いで書くことの大切さを学べた。

指導前の字と指導後の字とで、差が出たのは、やはり、筆運びを直接見ることができたことが大きな要因となったと感じられた。



習字については、3、4年生ともに、上手に書きたいという思いは強い。そういった子供たちに対して、習字のプロとの出会いは、「よしやってやる」という意欲付けとなった。

2 ソプラノ歌手 曾根さんを招いての音楽の授業

(1) 歌鑑賞

ソプラノ歌手との出会いは初めてであった。体育館いっぱいに響き渡る声量への驚き。語り掛けるような感情を込めた歌い方も、子供にとっては新たな出会いとなった。コンサートで使うドレスに身を包み、皆が知っている歌やオペラの代表的な曲の歌については、歌が大好きな子供たちの心が大きくゆさぶられた。



(2) 生き方講座



歌の鑑賞が終了後、「生き方講座」を開催した。なぜこの道に進んだのか。この道を進む中で大変だったこと、うれしかったことは何か。今何を思っ
て取り組んでいるのか。人生の先輩としての生き方の語りは、目指す道が決まっている子にとっても、そうでない子にとっても、自分のこれからの生き方(考え方や行動様式)に対する大きなヒントをいただくことができた。

3 ポプラ社 飯田 建さんを招いて 「百科事典の使い方」の授業



「辞典と事典の違いは何だろう」

調べるという観点では、子供たちは、この違いを意識していなかった。ポプラ社の飯田さんからは、「国語辞典にだけ載っていること」と「百科事典にだけ載っていること」があることを丁寧にわかりやすく教えてくださった。

その後、今、あまり使うことが減ってしまった百科事典の良さや使い方を具体的なテーマを出し、作業を交えて指導してくださった。

様々な教科で、調べ学習を行っています。その一つの方法を知っておくことはまず大事。

「調べ方の基本」を教えていただいたことは、これから学習を進めていくうえで、大きな力となった。

また、百科事典は、紙媒体だけでなく、パソコン



を使用しているものもあることを理解し、その活用方法を教えていただいた。子供たちは、わからないことがあると、すぐにインターネットを使って調べたがるが、なかなか自分の調べたいことにたどり着かないことがある。まずは、基本として、確実に情報をつかめる百科事典を開くのも一つであることを、実感を持って理解できた。

今年度も、この方々に限らず、多くの専門家と触れ合うことができた。自分の生き方を深く広くしていくためには、多くの出会いが必要であると考えられる。小中9年間の縦の連携だけでなく、地域等、学校外の方々とのつながりは、子供の育てる大きな手立てとなった。